
ここには全てがあり、恐らくは何もない



2011年8月15日。
日本は66回目の終戦の日を迎えた。多くの犠牲を払いながらも日本は敗戦。

戦争で亡くなった方々へ、哀悼の意を表します。

「ここには全てがあり、恐らくは何もない」

平和で豊かとなった日本でも、金を騙し取るよる人や多くの事件を引き起こし、人を悲しみに落とし、治安を乱す者がいる。

誰もが「自分だけ満たされたい」「満ち足りた生活がしたい」と思うだろう。
しかし、多くの物を手にしても、人は争いをやめない。

食料、生活用具、いろいろな物があっても、本当に得たいものは何もない、もしくは得られなかったという事なのだろうか。

ここに全てのものがあっても、本当に得たいものは、何もない。
今の人の姿なのだろうか。

何の為の戦争か、誰の為の戦争か、人と人がする戦争に意味はあるのか。
本当は何が欲しかったのか。
力とは何か。
我々は真剣に考えなければならない時に立っているのかもしれない。

平成23年8月15日
地球連合事務総長 塩田賢寿（地球連合発起人）